

各県別海事産業の経済学

—青森県—

掲載誌・掲載年月：日本海事新聞 1401
日本海事センター企画研究部
情報課長 奈良 孝

1. 県勢

青森県は、日本の本州最北端に位置し、北は津軽海峡を隔てて北海道に相對し、東は太平洋、西は日本海に面し、南は岩手県、秋田県に隣接している。面積は 9,644.5km² と全国第 8 位で、日本国土の約 2.5% を占め、海岸線総延長は 796.2km と全国第 13 位の長さである。八甲田連峰で県内が「津軽」（西部）と「南部」（南東部）とに二分され、それぞれの地域が豊かな個性を持ち、文化、歴史、方言、気質等に違いがある。

海運・港湾の歴史をみると、津軽海峡は古くから本州から蝦夷地・北海道へ向かう拠点であり、北方世界から本州への入口として、人・ものが交差する交通の動脈であった。青森の海運・港を語る上で欠かせないのが、十三湊（とさみなと、近世以降「じゅうさんみなと」）である。同湊は鎌倉時代後期に豪族安東氏の本拠地で、北海道のアイヌと和人との間の重要な交易拠点であった。司馬遼太郎氏によれば、『安東氏は北海道と朝鮮、中国を一つの円内におさめて津軽の地理的位置を海上交易に使っており、十三湊とその周辺こそ“北のまほろば”だったかもしれない』（街道をゆく）という。

また、日本海側の湊は江戸時代中期から明治三十年代まで、大阪と北海道を日本海航路で結んでいた回船である北前船との関わりが深い。

県庁所在地は青森市で、市町村数は 40。県の人口は 1,349 千人（12 年 10 月現在）で全国第 31 位。海運業を含む運輸業の就業人口は 4.0 万人（シェア 5.9%、以下同様）である。第一次産業従事者の割合は 13.0% と全国平均の 5.0% に比べ高い水準にあり、青森県の産業の特徴の一つといえる。10 年度の県内総生産は 4 兆 4,748 億円で日本全体の 0.903% で、全国第 28 位の規模である。県内総生産のうち、第一次産業は 0.17 兆円（3.8%）、第二次産業は 0.96 兆円（21.5%）、第三次産業は 3.35 兆円（74.6%）である。また、海運業を含む運輸・通信業の総生産額は 0.28 兆円（8.2%）である。

全国第 1 位の生産を誇る特産品としては、農産物ではリンゴ、にんにく、ながいも、ごぼう等、水産物ではヒラメ、いか類、わかさぎ等がある。

また、製造品出荷額（12 年工業統計）が全国的に上位の工業製品としては、食品関連ではさば缶詰（出荷額 44 億円、シェア 42.8%、①）、繊維関連ではパンティース

トッキング（同 56 億円、同 17.4%、①）、業務用機械・電子部品関連では事務用機械器具の部分品・附属品（同 723 億円、同 20.8%、②）等がある（○数字は全国の順位）。

青森市周辺の交通の特徴は、中心市街地に青森港と青森駅が隣接し、青森空港、東北自動車道へのアクセスがよいことにもみられるとおり、陸海空それぞれの輸送拠点が密接に連携していることである。さらに北海道新幹線（新青森－新函館（仮称））が 16 年 3 月開業予定であることから、北海道との交通の利便性向上も見込まれ、クルーズ客船寄港誘致促進の一つの大きな売りとなっている。

港湾では、青森港は本州と北海道を結ぶ拠点であり、フェリー等の入出港が多いことから、内貿貨物取扱量で東北第 1 位、八戸港は産業集積を背景に工業港、商港、漁港の性格を備えており、外貿貨物取扱量は東北第 3 位とそれぞれの特徴を活かした役割・機能分担がされている。

また、水産業では大間のマグロが全国的に有名であり、漁業就業者数、漁業経営体数、漁獲量等も全国的に上位で、日本有数の漁業県である。

2. 港湾

(1) 港湾概観

青森県には重要港湾の青森港、八戸港、むつ小川原港の 3 港、大間港、尻屋岬港、深浦港等の地方港湾 11 港と関根浜港の合計 15 港があり、漁港の 92 港も含めると青森県の港の数は 107 港になる。ちなみに重要港湾、地方港湾の合計の 15 は、東北地方で最多である。

(2) 青森港

青森港は本州の北の玄関として、古くから北海道とを結ぶ連絡港や東北地方以南に対する物流の中心として栄えた。1871 年の廃藩置県により、青森市には青森県庁が設置され、県の財政、経済、文化の中心地となり、1891 年東北本線、1894 年に奥羽本線が開通したことにより、青森港は北海道連絡の発着地点として陸海交通の重要拠点となった。1907 年には第 2 種重要港湾に指定され、1908 年には鉄道省による鉄道連絡船（1988 年までの 80 年）が設定された。1925 年には青函航路に当時交通史上はじめて貨物車航送が開始され、輸送力の増強確保が図られた。2010 年には、重要港湾のうちから、重点的に投資し、港湾政策に徹底することを目的に国土交通大臣が指定する重点港湾に選定された。

港周辺には、食品関連企業、木材関連企業等のほかに、A-Factory、アスパム、ねぶたの家ワ・ラッセ、メモリアルシップ八甲田丸等の観光・商業施設が隣接しており、背後圏には西部工業団地、青森中核工業団地等の工業団地がある。

11 年の外貿・内貿取扱貨物量は 33.4 百万トン。輸出入貨物合計は 543 千トン（輸出 99 千トン、輸入は 444 千トン）と 07 年から 09 年まで前年比 3 年連続で減少したが、10 年からは同 2 年連続で増加している。輸出の主要品目は、全輸出の 98.5%

が金属くず類（97.5 千トン）、輸入の主要品目は、全輸入の 91.3%が中東からの LPG（406 千トン）である。

移出入をみると、移出入貨物合計は 32.8 百万トン（移出 15.6 百万トン、移入 17.1 百万トン）と 10 年から前年比 2 年連続で増加している。

主な移出貨物の 97.9%、移入貨物の 88.3%はフェリーによる車両であるが、それを除く移出貨物は LPG、非金属鉱物等で、移入貨物では石油製品、セメント、重油等である。

係留施設として 31 のバースであり、うち岸壁 20 バース、栈橋 11 バースが整備されている。また、周辺の東西オイル栈橋に東西オイルターミナル、野内栈橋にはジャパンオイルネットワーク等のエネルギー関連企業の専用ターミナルがある。

また、65 年よりカーフェリーが就航したことに伴い、72 年に青森県フェリー埠頭公社が設立され、74 年に 3 バースの供用を開始し、現在 4 バースを供用している。

クルーズ客船は 12 年度で 11 船が寄港した。新中央埠頭岸壁はクルーズ船が訪れる東北地方唯一の大型客船対応ターミナルで、中心市街地に隣接している。

<図 1> 青森港の外観



青森港湾事務所 HP

(3) 八戸港

八戸港は青森県の太平洋南部に位置する重要港湾である。製紙・金属製造業等を中心とした生産拠点でもある。1929 年に八戸市が誕生し、1930 年に鮫浦港から八戸港へと改称、1951 年に重要港湾に指定された。その後、八戸火力発電所、日曹製鋼の立地があり、日本石油、出光興産等十数社に及ぶ石油メーカーの油槽施設が立地した。64 年には八戸地区が新産業都市に指定されると臨海部に製紙業、非鉄金属

業等の基礎素材型企業が相次いで立地して、工業港として本格的な整備が進められた。港周辺の後背地には、北日本造船、大平洋金属、八戸製錬、三菱製紙、コープケミカル、東北グリーンターミナル等の企業が立地している。また、同港は03年には総合静脈物流拠点港に指定され、10年には重点港湾に選定された。海外との交流では、米国・タコマ港と95年に「経済貿易協定」を締結、10年には「新経済貿易協定」を締結・更新した。

11年の外貿・内貿取扱貨物量は19.8百万トン。輸出入貨物合計は5.4百万トン（輸出395千トン、輸入は5,004千トン）で、10年は前年比5年ぶりで増加したが、11年は東日本大震災の影響により、前年比28.2%減と大幅に減少した。

輸出量は07年以来、前年比4年ぶりの減少となる17.0%減の395千トン。一方、10年の輸入量は前年比5年ぶりで増加したが、11年は前年比29.0%減となる5,004千トンと大幅に減少した。

輸出の品目別では、鉄鋼（135千トン）、非金属鉱物（110千トン）、水産品（34千トン）の順で、上位3品目で全輸出量の約7割を占める。一方、輸入の品目別では、金属鉱（1,606千トン）、とうもろこし（892千トン）、木材チップ（857千トン）、石炭（654千トン）の順で、上位4品目で全輸入量の約8割を占める。

移出入をみると、移出入量合計は14.4百万トン（移出6.8百万トン、移入7.6百万トン）で、移出・移入量ともに前年比2年ぶりの減少となった。

移出貨物の品目別ではフェリー貨物が全移出量の約5割を占め、それを除くと石灰石、セメントの順。移入貨物でもフェリー貨物が全移入量の約5割を占め、それを除くと石油製品、重油、完成自動車の順となっている。

クルーズ客船は、08年以降は毎年1船寄港している。

3. 海運等

(1) 外航海運・内航海運

八戸港においては94年に東北で初めて東南アジアコンテナ航路が開設され、外貿コンテナ貨物の取扱を開始した。97年には中国、98年には韓国、北米西岸コンテナとの間で定期航路が開設された。また、中国コンテナ定期航路は、98年より中国・韓国コンテナ定期航路として韓国船社の南星海運がサービスを行っている。12年5月には航路が再編され、釜山と八戸間にフルコンテナ船5隻投入して2便/週体制となった。

外貿・内貿コンテナ貨物取扱量（実入り）は、10年（21,513TEU）は過去最高の取扱量を記録。11年は東日本大震災の影響により、前年比33.7%減の15,131TEUとなったが、12年は同37.3%増の19,425TEUまで回復した。

外貿コンテナの輸出コンテナ取扱量の品目別（トンベース）では鉄鋼（シェア44%、以下同様）、水産品（15.8%）、再利用資材（9.6%）の順で、国別では中国（35%）、オランダ（24%）、台湾（19%）の順となっている。輸入コンテナ取扱量の品目別で

は動植物性製造飼肥料（13.4%）、製造食品（9.6%）、化学薬品（8.5%）の順で、国別では中国（33%）、韓国（15%）米国（10%）の順となっている。

<図表 1> 八戸港コンテナ貨物取扱量の推移

年	コンテナ貨物				外貨コンテナ貨物				内貨コンテナ貨物			
	輸移出	輸移入	合計	伸率 (%)	輸出	輸入	小計	伸率 (%)	移出	移入	小計	伸率 (%)
平成13(2001)年	6,948	9,806	16,754		6,888	9,473	16,361		60	333	393	
平成14(2002)年	7,018	10,459	17,477	4.3	6,937	9,994	16,931	3.5	81	465	546	38.9
平成15(2003)年	6,660	10,953	17,613	0.8	6,645	10,593	17,238	1.8	15	360	375	▲ 31.3
平成16(2004)年	7,113	11,668	18,781	6.6	7,086	11,393	18,479	7.2	27	275	302	▲ 19.5
平成17(2005)年	7,813	12,319	20,132	7.2	7,802	12,112	19,914	7.8	11	207	218	▲ 27.8
平成18(2006)年	8,006	13,036	21,042	4.5	7,202	12,908	20,110	1.0	804	128	932	327.5
平成19(2007)年	7,953	13,085	21,038	▲ 0.0	6,669	13,038	19,707	▲ 2.0	1,284	47	1,331	42.8
平成20(2008)年	8,891	13,915	22,806	8.4	6,352	13,242	19,594	▲ 0.6	2,539	673	3,212	141.3
平成21(2009)年	12,008	12,962	24,970	9.5	9,440	10,197	19,637	0.2	2,568	2,765	5,333	66.0
平成22(2010)年	15,402	12,815	28,217	13.0	11,533	9,980	21,513	9.6	3,869	2,835	6,704	25.7
平成23(2011)年	9,942	8,759	18,701	▲ 33.7	7,265	7,866	15,131	▲ 29.7	2,677	893	3,570	▲ 46.7
平成24(2012)年	13,878	11,803	25,681	37.3	9,408	10,017	19,425	28.4	4,470	1,786	6,256	75.2

『八戸港統計年報』

内航海運（11年3月現在）では、100総トン以上の船舶を使用している登録事業者が23社、38隻。100総トン未満の船舶を使用している届出事業者は41社、76隻となっている。

地元企業では、青森市に細川産業等があり、八戸市には扶桑船舶、八戸船舶等がある。また、地元企業ではないが、八戸港寄港の内航フィーダーサービスを行っているのは、神戸市の井本商運（京浜、八戸：週1便）、静岡市の鈴与海運（横浜、八戸、苫小牧、仙台等：週1便）、横浜市の横浜コンテナライン（横浜、仙台、宮古、八戸、苫小牧：週1便）の3社である。また、RORO船定期航路のサービスを行っているのは、神戸市のプリンス海運（苫小牧、八戸、川崎：週2便）と名古屋市のフジトランスコーポレーション（名古屋、仙台、苫小牧、八戸：1便/4日）の2社である。

(2) フェリー・旅客船

フェリー事業では、青函（青森港－函館港）航路にフェリーを運航させているのは津軽海峡フェリーと青函フェリーである。

津軽海峡フェリー（本社：函館市）は、ブルーオーシャンのグループ会社で青函航路（8往復/日）と大函航路（大間港－函館港：2往復/日）でフェリーを就航させている。青函航路の運航船は「ブルードルフィン」等4隻。大函航路は大間町と函館市の生活航路となっている。13年4月に新造船「大函丸」が就航し、それに合わせて大間港に新ターミナルがオープンした。

青函フェリー（本社：函館市）は、栗林商船グループで一般旅客定期航路事業、

内航運送取扱業、船舶代理業等を営む共栄海運と日本通運グループで一般旅客定期航路事業、内航運送取扱業を営む北日本海運の共同で「はやぶさ」等4隻(8往復/日)を運航している。

川崎近海汽船は、八苦航路(八戸港-苦小牧港)にフェリーを運航させており、この航路は、「シルバークイーン」の愛称で呼ばれる。同航路(4往復/日)の運航船は「シルバークイーン」等4隻。また、同社は東日本大震災の影響により、運航中止していた八苦航路の振替航路として、一時的に青苦航路(青森-苦小牧)にフェリーを就航させた。12年度の旅客人数34.4万人、乗用車63千台等と震災前よりも増加した。

また、東津軽郡外ヶ浜町のむつ湾フェリーは、むつ湾内の蟹田-脇野沢間(冬期休航)にフェリーを就航させている。青森市のシライインは、青森-脇野沢-牛滝-福浦-佐井間に高速船を就航させており、生活航路、観光航路としての役割を担っている。

その他に旅客船事業では、13年7月現在、13の旅客船事業者、21の旅客航路(一般旅客定期航路9、旅客不定期航路12)がある。

<図表2> フェリー航路の現状

事業者名	航路名	事業開始年月	航路距離(Km)	所要時間(時間:分)・運航回数等	船名(総トン:旅客定員:航海速度[ノット])
青函フェリー [共栄運輸(株)・北日本海運(株)共同]	定期航路 青森~函館	S47(1972).6	113	3:50~4:00 1日8往復	はやぶさ(1,777トン:80名) 3号はやぶさ(2,107トン:105名) あさかぜ(2,048トン:198名) あさかぜ5号(1,958トン:103名)
津軽海峡フェリー(株)	定期航路 青森~函館	S47(1972).8	113	3:40~3:50 1日8往復	ブルードルフィン(7,003トン:586名:20.0) びなす(7,198トン:590名:20.0) びるご(6,706トン:580名:20.0) えさん2000(2,367トン:78名:17.5)
川崎近海汽船(株)	定期航路 八戸~苦小牧	S48(1973).4	242	7:15~9:00 1日4往復	シルバークイーン(7,005トン:600名:20.7) シルバークイーン(10,500トン:500名:18.2) ベにりあ(6,558トン:450名:19.4) シルバークイーン(9,483トン:600名:20.5)
津軽海峡フェリー(株)	定期航路 大間~函館	H20(2008).12	40	1:40 1日2往復	大函丸(1,912トン:478名:18.0)
むつ湾フェリー(株)	定期航路 蟹田~脇野沢	S55(1980).4	22.6	1:00 1日4便(8.8~18は6便)	かもしか(611トン:240名)

『業務概要』(国土交通省東北運輸局青森運輸支局)

(3) 港湾運送業・倉庫業

青森港の港湾運送では、一般港湾運送事業を行う青森通運と日本通運青森支店の2社がある。八戸港の港湾運送では、一般港湾運送事業を行う八戸港湾運送と新丸港運の2社がある。八戸港湾運送は1942年創業で、むつ小川原港に営業所を持ち、船舶代理店業、倉庫業等も行っている。主な取引先は三菱製紙、東北グレーンター

ミナル、東北電力、八戸製錬等がある。

倉庫業では、1947年に青森県倉庫協会が設立され、11年1月現在の会員会社数は28社。青森市には日本通運青森支店、青森通運やヤマウ鳥谷部臨港倉庫等の地元企業が10社、八戸市には八戸運輸倉庫、八戸臨港倉庫等の地元企業が13社、弘前市他に5社がある。

4. 造船業・船用工業

青森県には造船法及び小型造船業法の許可・登録・届出事業所は、17社・事業所がある。青森市には細川産業の関係企業で1980年創業の北浜造船鉄工がある。主な事業は船舶の建造修理及び船用機関・機器の修理等で、500総トン以上の小型鋼船、木船の建造設備を有する。12年の建造実績は曳船、タグボート、作業船等5隻。

八戸市には北日本造船、八戸造船事業協同組合、八戸港造船沼館工場、角清造船等がある。1969年創業の北日本造船は建造船台1台、建造乾ドック台1台等の設備を有する。近年は冷蔵運搬船、混載自動車専用船、LPG運搬船等、各種多様な高付価値船を建造し、09年の建造実績は9隻で、青森県の船舶の輸出に貢献している。

その他に十和田湖観光汽船十和田湖造船所、十和田観光電鉄十和田湖造船所等がある。

船用工業では、船用機関修繕・整備・販売業は17社であるが、船用機関・機器製造業を営む企業はない。

5. 曳船・水先案内人・海事代理士

青森港では青森県青森港管理所、八戸港では八戸港湾運送の関係企業の東日本タグボートが曳船事業を行っている。

水先関連では、八戸水先区水先人会の会員数（12年度）は2名で、同年度の実績は日本船舶が44隻、外国船舶が494隻と合計538隻、13.5万総トンとなっている。

青森県の海事代理士は12年で17名と東北では宮城県の39名に次ぐ人数である。

6. 船員教育・育成機関と船員数

青森県（11年）で雇用されている船員は1,418名（乗組員1,371名と予備員47名）で、内訳は汽船99名、漁船1,093名、その他船舶が179名。東北六県合計の船員数は5,933名（うち予備員157名）で、青森県が23.9%を占め、宮城県に次いで第2位である。

八戸市に県内唯一の水産・海洋系高校である青森県立八戸水産高等学校がある。1909年に青森県水産試験場伝習部として創立され、1918年に青森県水産講習所に改称され、08年に創立100周年を迎えた。学科は海洋生産科、水産食品科等に加え、専攻科として漁業科、機関科がある。03年にはハワイ南西海域に航海実習を行う実習船「青森丸」が建造された。